

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年12月18日

【2017年12月9日～2017年12月15日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは対米ドル、対円で下落しました。また、2年国債金利は小幅に低下しました。

年金改革法案を巡る政治情勢につきましては、政府による議会工作が難航した結果、14日（現地、以下同様）にマイア下院議長が同法案の年内における下院採決を断念し、2018年2月に先送りすることを表明しました。

ブラジル金融市場では、採決延期を受けてブラジル・レアルが急落する場面がありましたが、年内採決に対する市場参加者の期待感にはさほど高くなかったこともあり、週末にかけては下落幅を縮小しました。一方、財政赤字拡大とブラジル国債の格下げへの懸念から、長期金利は上昇基調となりました。

12日に発表された金融政策委員会（12月6日開催分）の議事録では、2018年2月の次回会合でも緩やかな緩和の継続が適切とみられるとの見解が示され、2年国債金利の低下要因となりました。

【2】今週の見通し

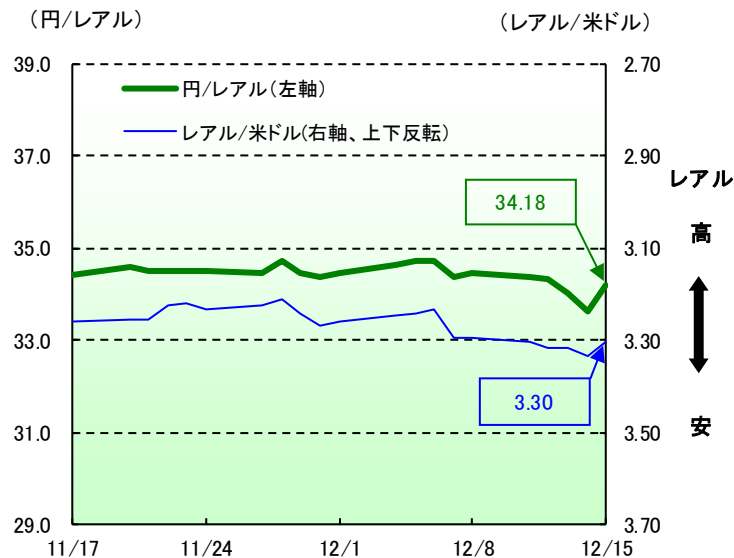
今週のブラジル金融市場は、年金改革法案の採決延期の余波が残る可能性があるものの、クリスマス休暇を前にめぼしい政治イベントもないことから、為替・債券ともに動意に乏しい展開を想定しています。

年金改革法案について、マイア下院議長が示した新たなスケジュールでは、2018年2月5日に審議を再開し、19日に下院本会議での採決を実施する予定となっています。政府は各議員を説得する1カ月以上の時間的猶予を確保しましたが、年が明けて2018年10月の総選挙が意識され始めると、国民に痛みを強いる改革への賛成票はより集めづらくなることを見込まれます。政府が法案内容でさらなる妥協を強いられ、年金改革が財政再建にもたらす効果が低下することは懸念されますが、投資家のブラジル経済に対する信認を保つためには同法案の可決が必要であることから、今後も法案審議の行方や政府の議会工作の動向には注目が集まります。

経済指標等につきましては、経済活動指数やインフレ率（IPCA-15）の発表が予定されています。

【ブラジル・レアル 為替推移】

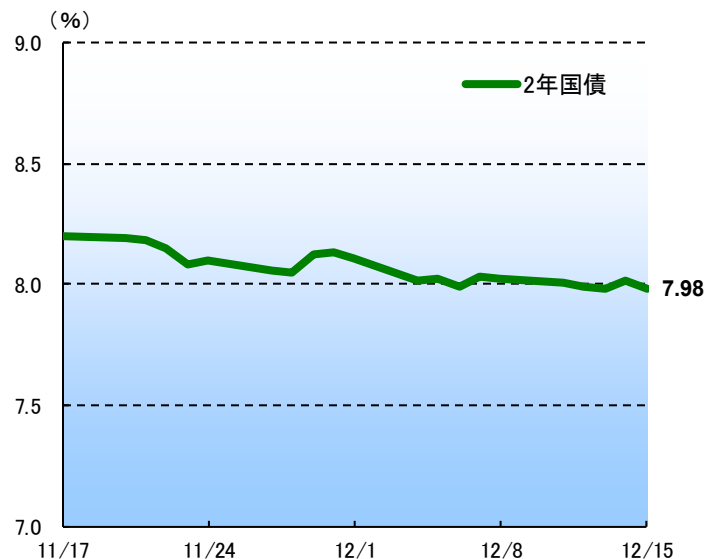
（2017年11月17日～2017年12月15日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2017年11月17日～2017年12月15日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>